

子供達の野球離れに 歯止めを!!

DEレポート No. 21

2023年9月
作成者:N.H

 **脱炭素経営ドットコム**
By DENKOSHA

「DEレポート」とは、環境やSDGsに係る社会問題を取り上げ、原因・背景から解決に向けた施策事例や将来の展望までを調査しコンパクトにまとめた報告書です。脱炭素経営ドットコムを運営する株式会社電巧社では、全従業員が本レポートの作成に取り組んでいます。

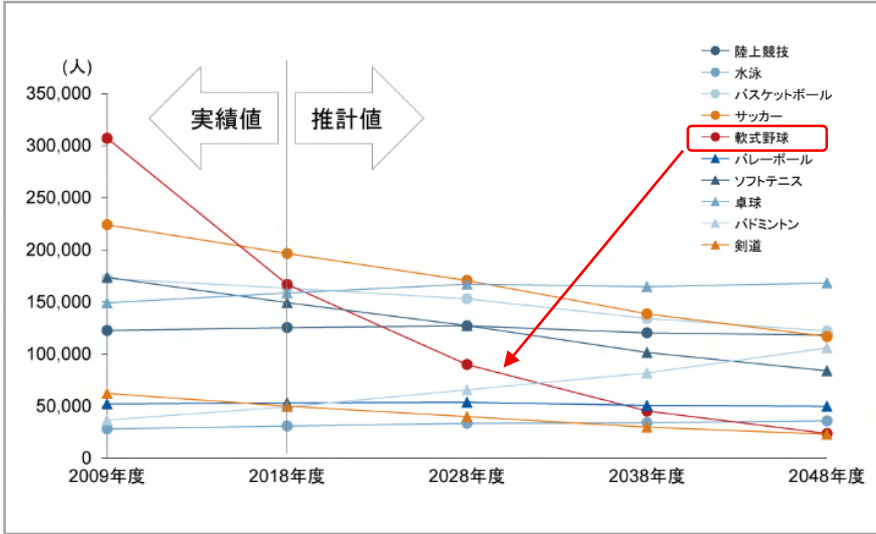


高まる「野球人気」の裏で進む深刻な小中学生の「野球離れ」

■ 少年野球の競技人口が激減！ 少子化だけではなく社会問題が！

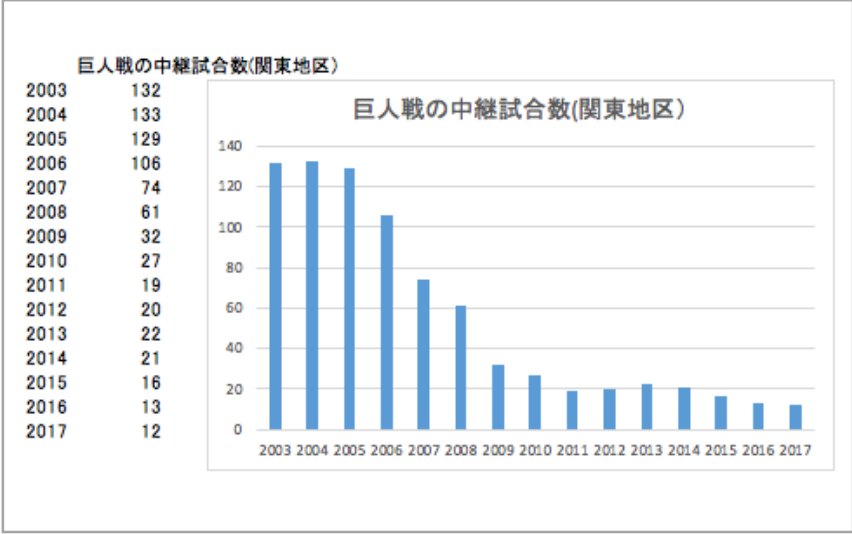
- 小中学生の野球競技人口が「少子化の7～8倍」というスピードで激減している!?
- 少年軟式野球団員数・2011年:16万2千人→ 2021年:11万6千人 / 中学軟式野球部員数・2011年:28万1千人→ 2021年:14万4千人
- そもそも少子化で子供の数が減っている上、時代と共にプロ野球中継の減少など子供達が野球を観たり触れる機会が減ってしまった
- サッカー・バスケ・卓球など子供達の選択肢は多様化
- 競技人口が減る事は野球ファンの減少に繋がり、野球界そのものの市場が縮小。競技人口が減れば、必然、競技レベルの低下が危惧される

■ 中体連 男子 協議別加盟人数 推計



出典:スポーツ庁HPを引用し筆者作成

■ 野球中継が激減



出展:ヤクイク

深刻な少年野球の競技人口の減少…その対策は有るのか？

少年野球の競技人口の減少…現状と対策

■ いくつかの課題が浮き彫りになってきた！

- 子供達が野球に興味を持ち始めるきっかけとしてキャッチボールが出来る公園や校庭の開放など野球が出来る環境整備が求められる
- 「日本野球機構(NPB)」「日本野球連盟(JABA)」「高校野球連盟」といった野球関連の団体、プロ野球の現役選手やOB、高校球児、また地域の有志企業や団体に拠る「野球体験」「野球教室」「大会開催」など外部の協力と支援や行政に拠る地域振興が不可欠
- 少年軟式野球団は監督・コーチ・審判・お茶当番など基本的に全て保護者を中心としたボランティアで成り立っており、外部があまり口を出せず、これまでの指導方針や勝利至上主義といった価値観は一朝一夕では変えられないが、大人の罵声や怒声を禁じたり、子供達のニーズに合わせたクラス分けなど受け入れ態勢の見直しも必要な時期に来ている

■ お茶当番や保護者帯同などの負担



出典:写真AC

■ プロ野球選手による「野球教室」



出展:一般社団法人 少年軟式野球国際交流協会

野球を取り巻く環境の整備と時代に合ったチーム運営や指導方針・指導体制がカギ！

少年野球の未来を考える

■ 求められる野球界全体での取り組み

- 子供達に「野球」そのものを知って貰い、好きになって貰えるような機会を数多く創出する。公園・校庭・野球場などを開放してキャッチボールやボール遊びが出来る環境の整備。チームへの入部に対する心理的ハードルや現実的な負担を軽減する施策を打ち出し実践（お茶当番・土日祝帯同・子供達の送迎・高い用具代など保護者の負担軽減！）
- 野球を愛する多くの関係者が、野球界の未来を案じて時代に合ったチームや指導の在り方について、大きな指針を打ち出して啓蒙する
- 「競技志向の子供」と「ただ野球を楽しみたいだけの子供」それぞれに合わせた受け皿を作り、皆が笑顔で野球に取り組める環境を広げて行く（監督・コーチなど大人の罵声や怒声禁止！指導者の指導力向上を目指した「指導者資格」の取得や導入！）

■ 野球離れストップへ初の「指導者連絡会」開催



出展:スポーツニッポン新聞社提供

■ ボールを投げて打って！ 野球は楽しいスポーツだ！



出典:写真AC

「勝ちたい子」も「楽しみたい子」も、それぞれが参加出来るチーム(受け皿)の増加に期待！

■ 参照・引用資料

- スポーツ庁, 『30』年後には運動部活動の生徒は半減する?! , 2023年9月8日(<https://sports.go.jp/special/value-sports/30.html>)
- ヤクイイク, 『【今、野球と子供は。】いつの間にか消えてしまった「野球のすそ野」』, 2023年9月8日(<https://baseballking.jp/yakyuiku/182061/2>)
- 一般社団法人 少年軟式野球国際交流協会, 『元プロ野球選手による野球教室』, 2023年9月8日(<https://www.iba-boys.com/info/9531/>)
- 新潟県野球競技会, 『野球離れストップへ初の指導者連絡会』, 2023年9月8日(<https://www.niigatabo.com/2019/02/27/%E6%83%85%E5%A0%B1-%E9%87%8E%E7%90%83%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E6%B8%9B%E5%B0%91%E3%81%AB%E6%AD%AF%E6%AD%A2%E3%82%81-%E5%88%9D%E3%81%AE%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%80%85%E9%80%A3%E7%B5%A1%E4%BC%9A-%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%8B%E3%83%81/>)



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」をうまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DELレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電気のコンシェルジュ

DENKOSHA

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DELレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。